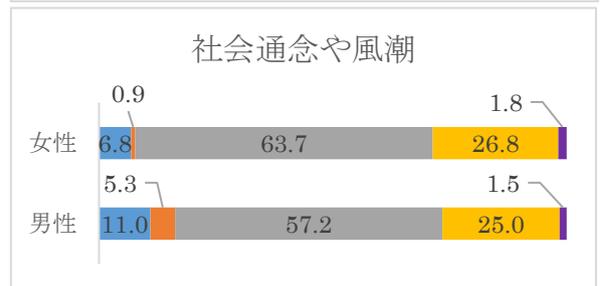
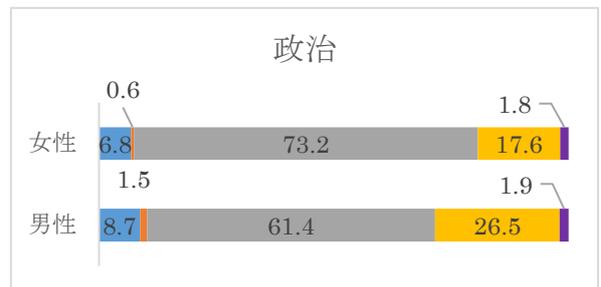
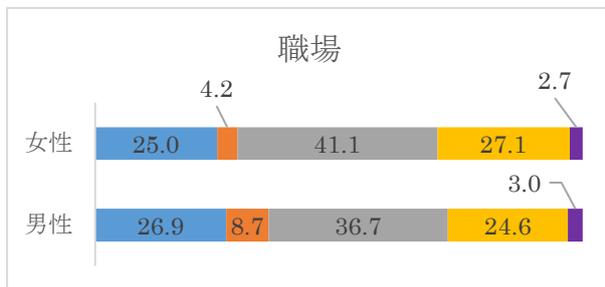
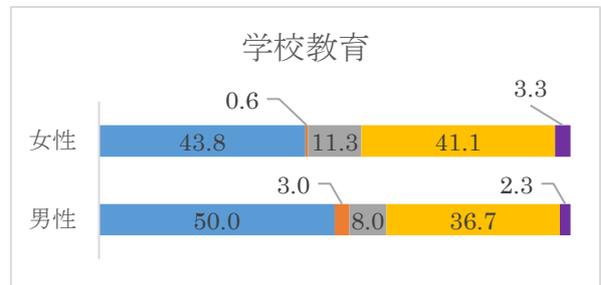
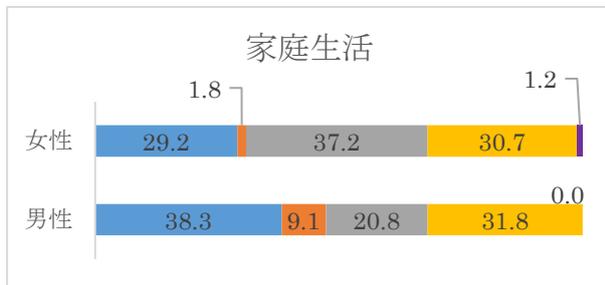


# 1 男女平等に関する意識について

## 1 男女の地位の平等観

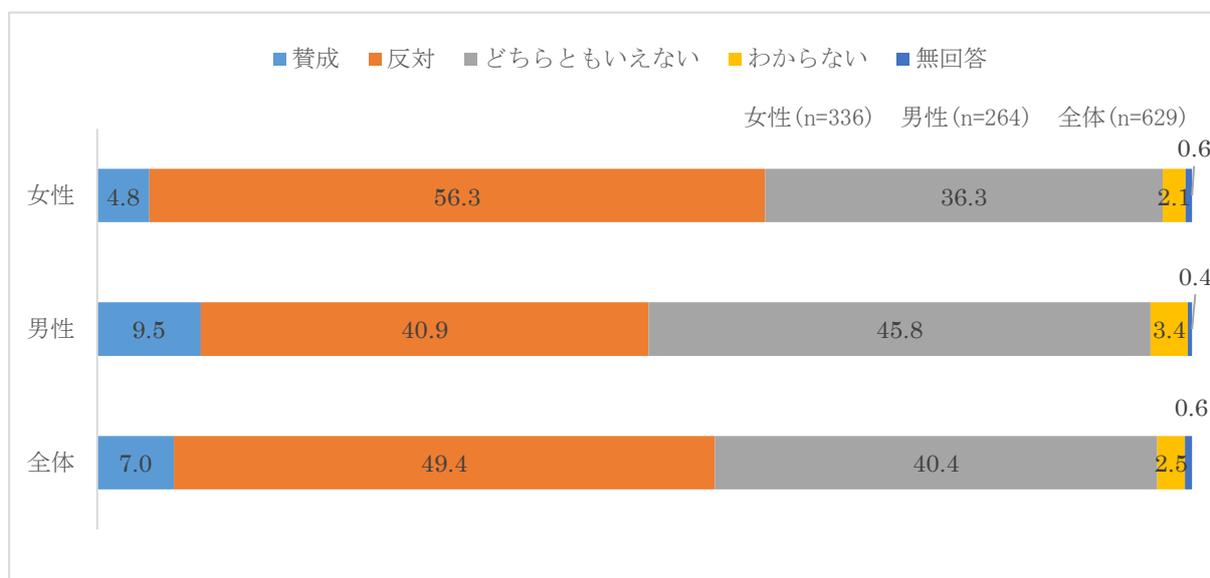
- ◆【政治】、【社会通念や風潮】、【社会全体】では、「平等になっている」の回答が男女共に2割以下となっています。
- ◆すべての分野において、男性の方が「平等になっている」の回答が高く、男女の平等についての意識の差がうかがえます。

■ 平等になっている    ■ 女性の方が優遇されている    ■ 男性の方が優遇されている  
■ どちらともいえない    ■ 無回答    ※女性 (n=336) ・男性 (n=264)



## 2 性別役割分担意識

◆【男は仕事、女は家庭】という考えについて、「反対」する女性は5割に対し、男性は4割となっています。一方、「賛成」の男性は、女性のおよそ倍となっています。



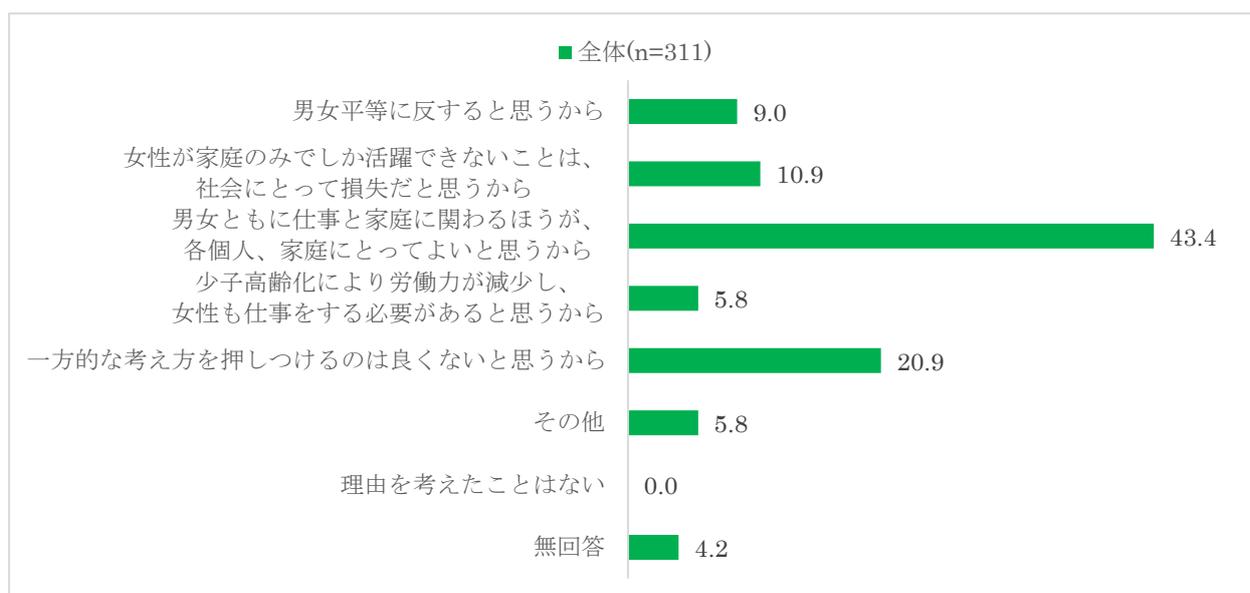
### <賛成の理由>



#### 【その他】を選択した方の意見

- ・現実がそうだから。
- ・まだまだ社会がその風潮だから。
- ・凡そ、性別で役割分担をしたほうが効率がよいと思うが、適材適所である為、一概には言えない。

## <反対の理由>



### 【その他】を選択した方の意見

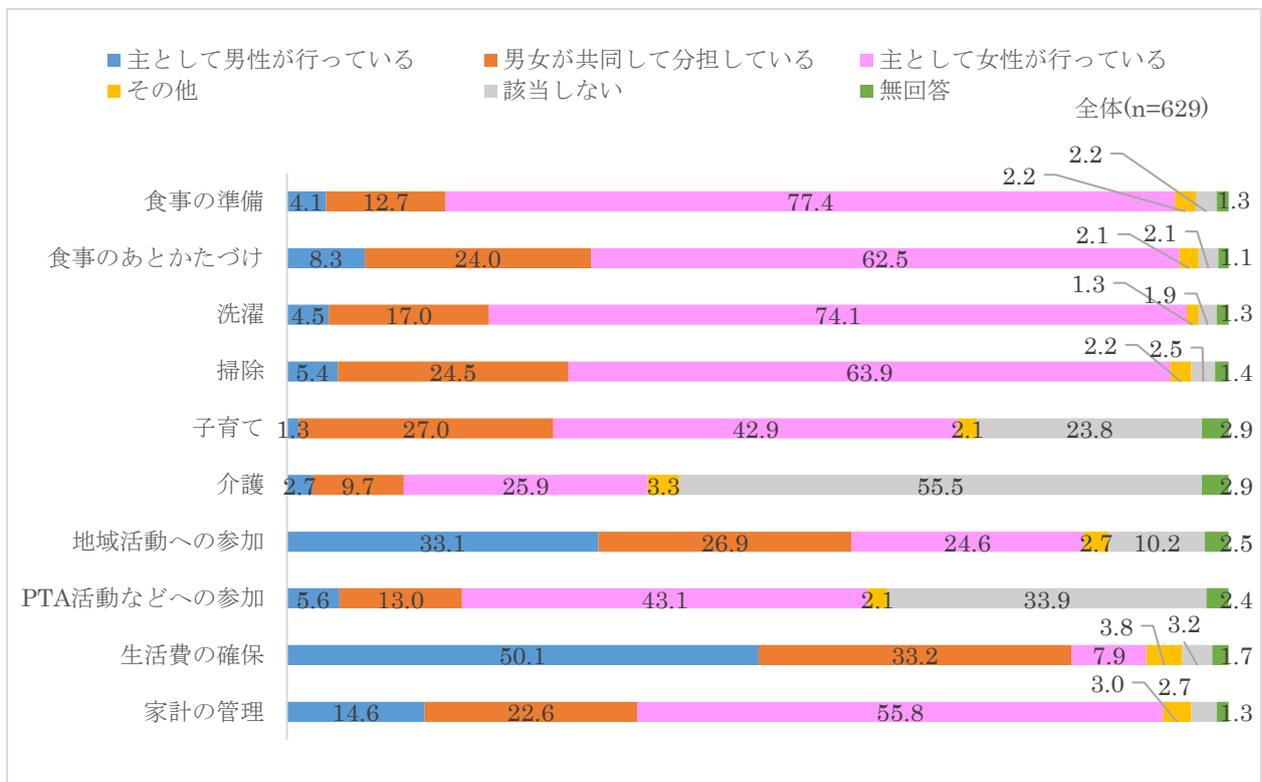
- ・考えが偏っている状況に応じて話し合っ決めてべき。
- ・共働きをしないと生活できないから。
- ・男性の給料一つで家庭を守るのは、リスクが高すぎると思うから。
- ・女ばかりが家庭だと、家政婦みたいだから。
- ・女性も仕事を持つことにより、経済的余裕を得たいから。
- ・女性も仕事をしたいと思ったらしてもいいと思う。男性が仕事でなくてもよいと思うがやはり仕事の現場では男性のほうが金銭面でよかったりすることに差別を感じる。
- ・個人の自由だと思うから。
- ・その家庭によって必要に応じて考えるべき事なので男女で分ける必要はないと思う。
- ・女性だけが家事や育児といった大変であるにも関わらず、無償の仕事を割合多く負担するのは女性にとって大変だと思う。
- ・主夫のあり方も悪い選択ではないと感じるから。
- ・無能な男が多い為、女性が仕事した方が良い。
- ・男女平等に反する、女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとって損失である、男女ともに仕事と家庭に関わるほうが、各個人、家庭にとってよいと思うから。

- ・男が、女がではなくて、「自分は何をしたいか」「自分は何ができるか」をまず考えるべき。性別に関係なく、能力・好みを発揮できるとよい。
- ・男性の収入が増える見込みがない現実、手に職をもった女性は男性よりも収入が見込まれる。なのに家庭でいばっているのは男尊女卑だと思う。
- ・人それぞれ合う合わない仕事（役割）があり、それを性別で分けるのはおかしいと感じる。また、どちらか片方をやればよいという考えでは先行がよくないと思う。

## 2 家庭生活・子育てについて

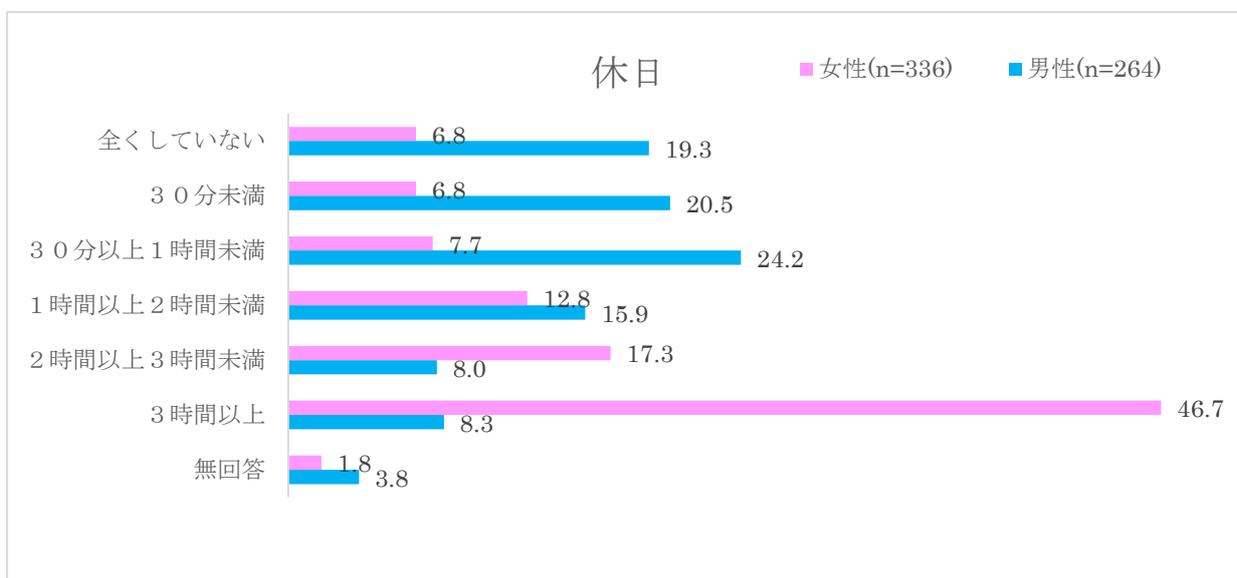
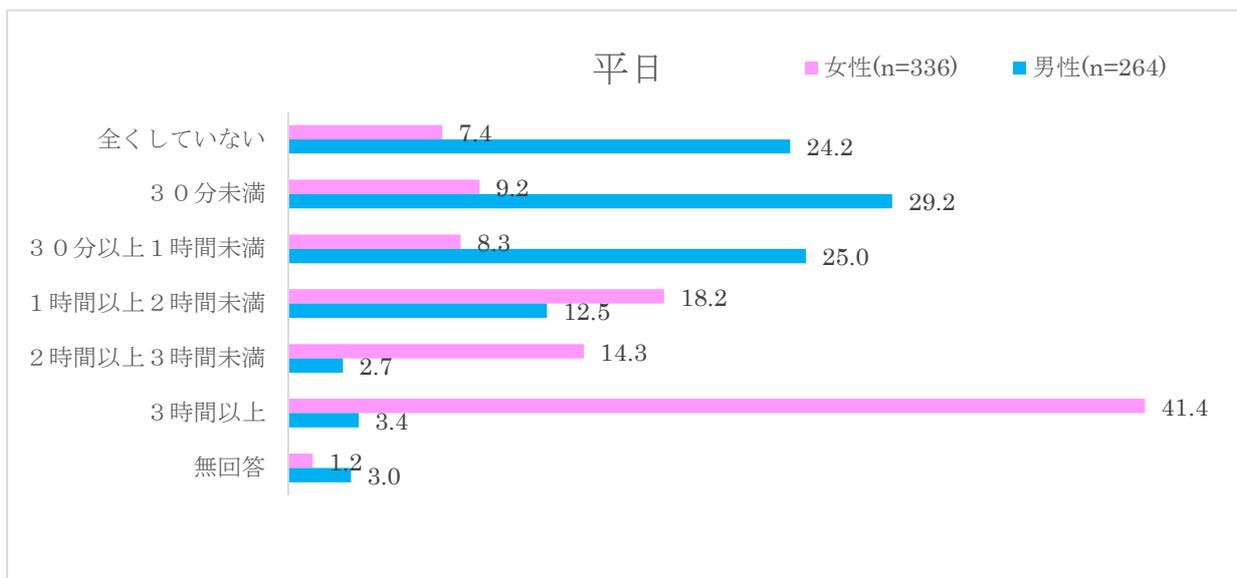
### 1 家庭生活での役割分担<現実>

◆10の分野の家庭における役割分担について、【生活費の確保】は5割が「主として男性」が行っており、【食事の準備】、【食事のあとかたづけ】、【洗濯】、【掃除】は、6割以上が「主として女性」が行っています。



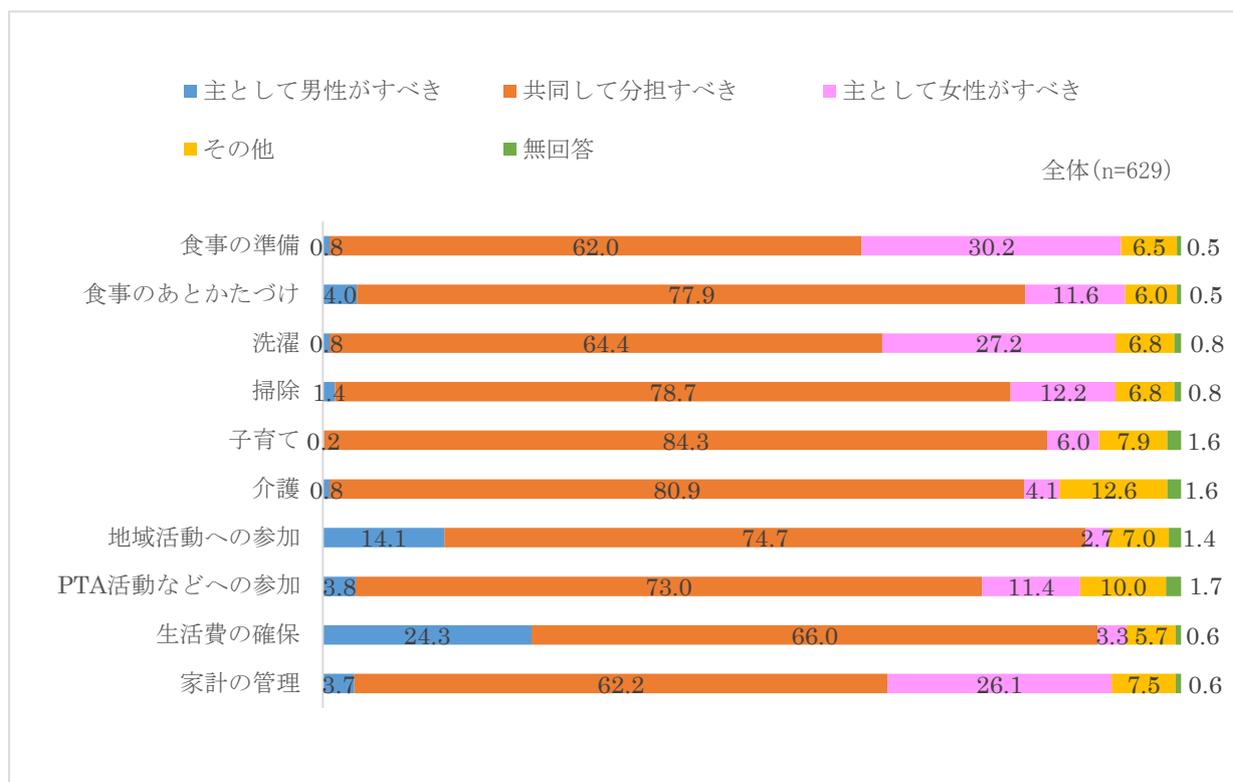
## <家事に費やす時間>

- ◆女性の4割以上は、平日・休日ともに家事に費やす時間が「3時間以上」となっています。
- ◆男性は平日では5割、休日では4割が家事に費やす時間が「30分未満」または「全くしていません」となっています。



## 2 家庭生活での役割分担<理想>

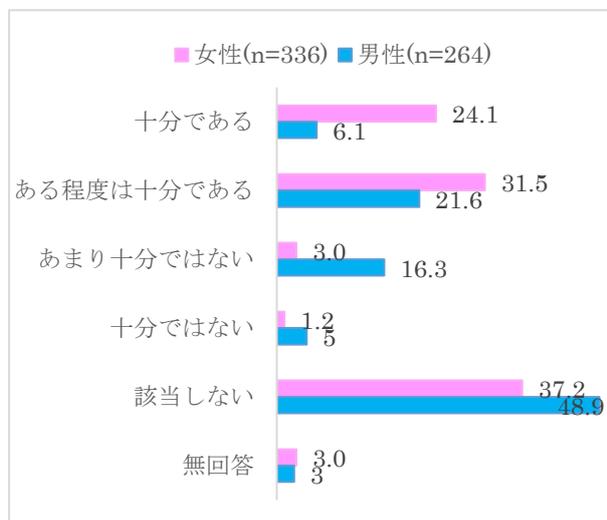
◆ 10の分野において、「共同して分担すべき」が最も高くなっています。



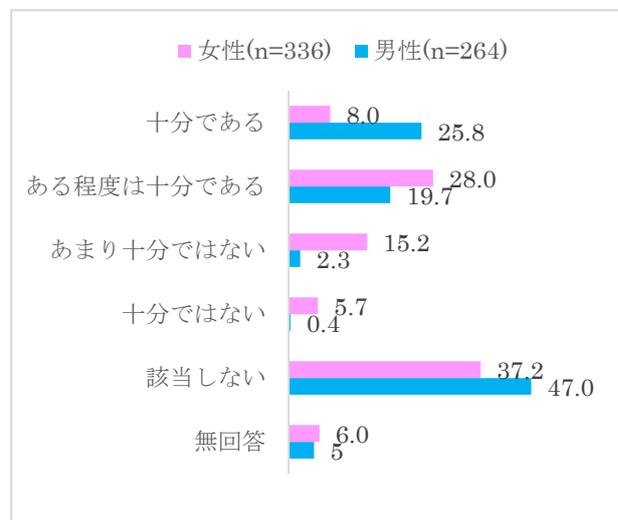
## 3 子育てへの関わり

◆ 男女とも【本人】【配偶者・パートナー】の子育ての関わりについて、「十分である」、「ある程度は十分である」の合計が、「あまり十分ではない」、「十分ではない」の合計を上回っています。  
 ◆ 子育てへの関わりが十分でない原因は、男女とも「仕事が忙しいため」が最も高くなっています。

### 【本人】

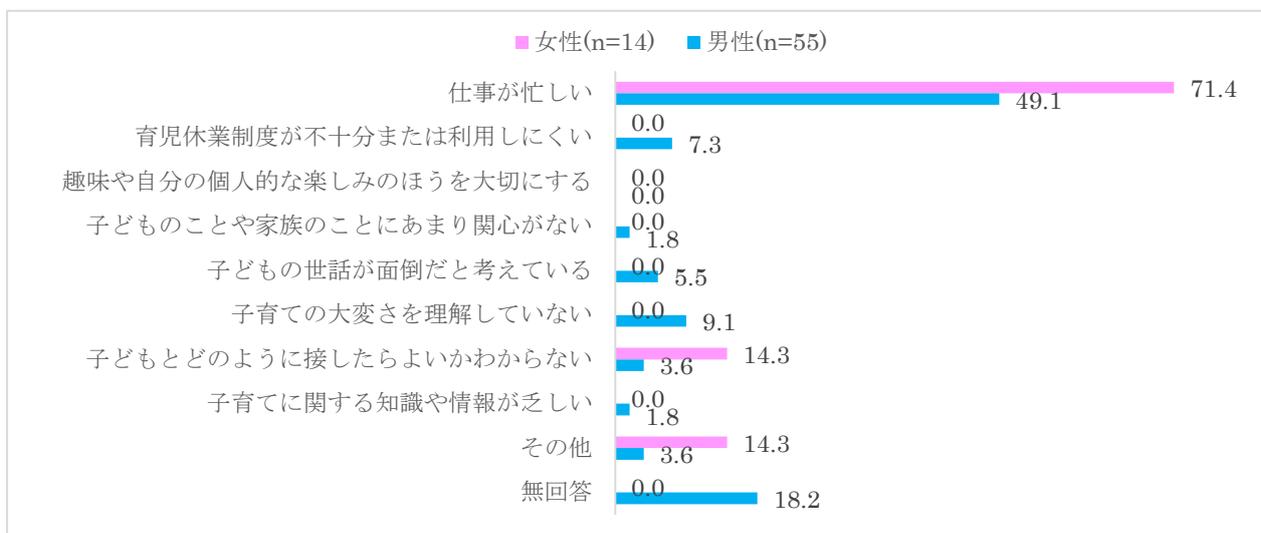


### 【配偶者・パートナー】



## <子育てへのかかわりが十分でない原因>

### 【本人】



### 【その他】を選択した方の意見

- ・子どもは成人しているため、本人の自主性にまかせている。
- ・教育方針の違いから、身を引くことへ決断。
- ・子ども達の希望に添った育児が出来ているか、常に不安であるため。

### 【配偶者・パートナー】



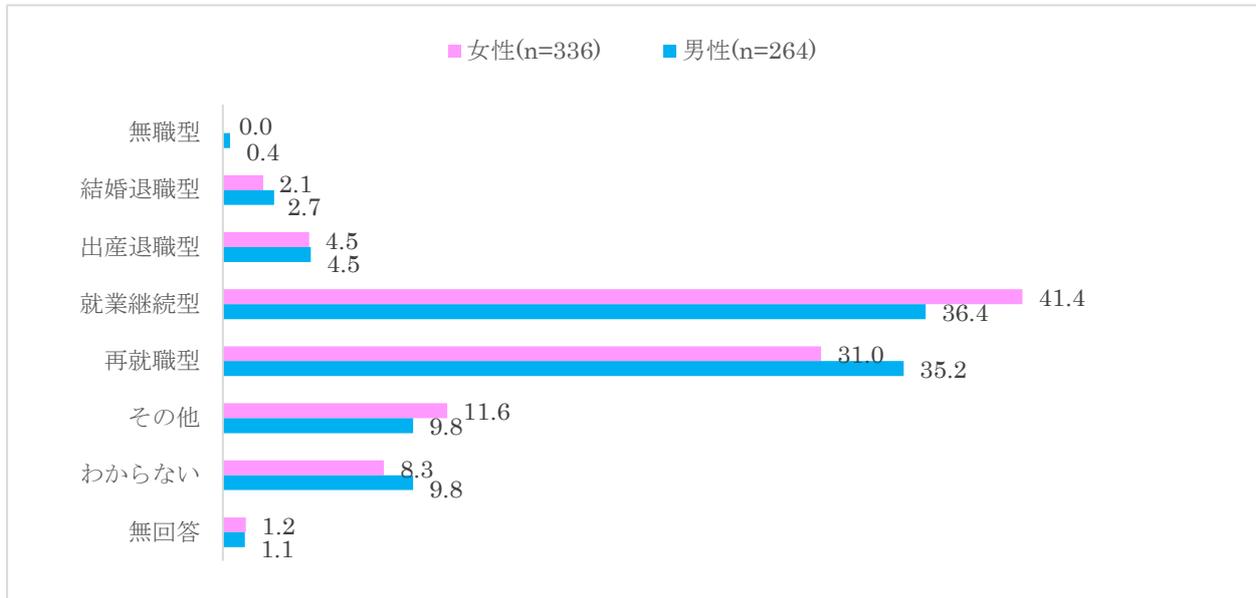
### 【その他】を選択した方の意見

- ・体調が悪いため。
- ・自分の役割とっていない。(妻の仕事)
- ・別々に生活していたから。
- ・原因はわからないが、趣味等を大切にしているように思える。

### 3 男女の就業・仕事について

#### 1 女性の働き方の理想

◆男女ともに、【子どもができて、ずっと職業をもち続けた方がよい】、【子どもができたら辞めるが、子どもが成長したら再び職業をもつ方がよい】が高くなっています。



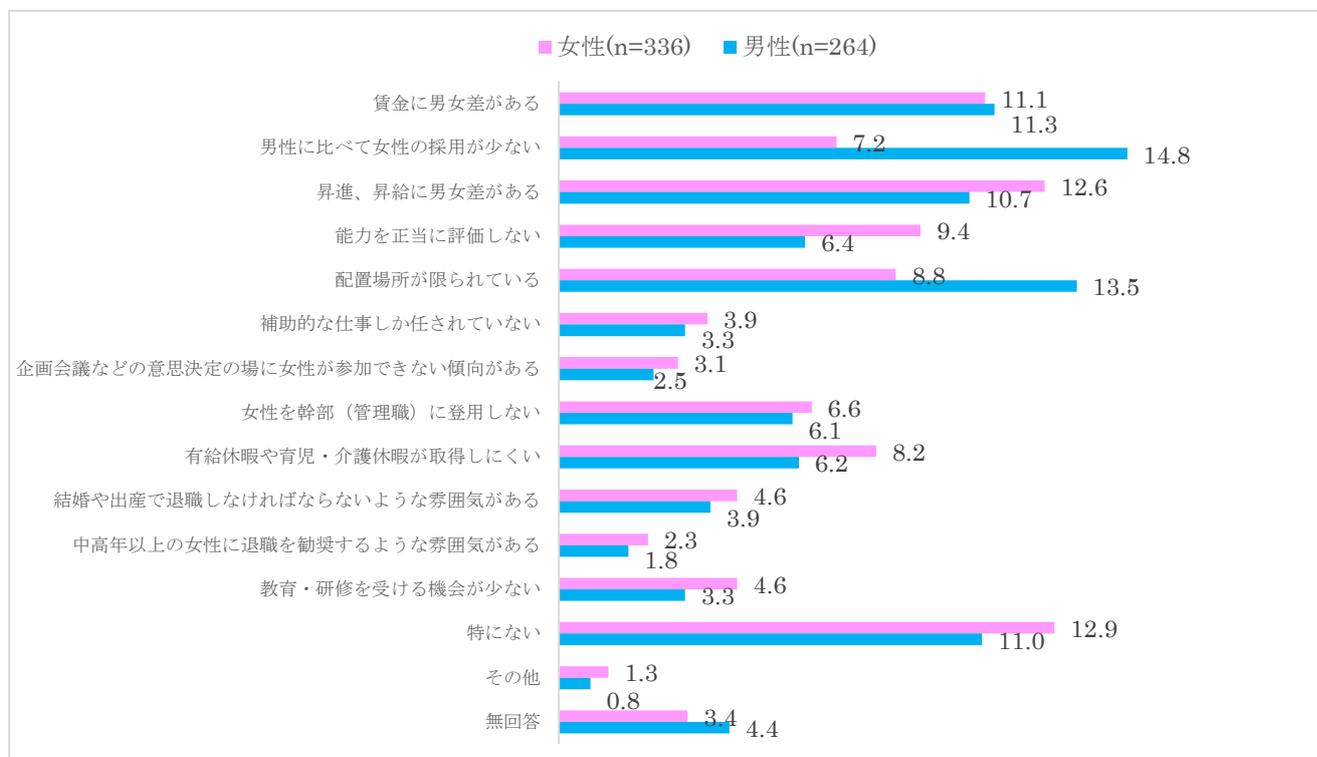
本来の選択肢	再定義した選択肢
女性は職業をもたない方がよい	無職型
結婚するまでは職業をもつが、結婚したら辞めた方がよい	結婚退職型
子どもができるまでは職業をもつが、子どもができたら辞めた方がよい	出産退職型
子どもができて、ずっと職業をもち続けた方がよい	就業継続型
子どもができたら辞めるが、子どもが成長したら再び職業をもつ方がよい	再就職型

#### 【その他】を選択した方の意見

- ・その時の事情で職業を持つか判断すればよい。
- ・夫婦で話し合っ決めてほしいと思う。(ただし、パートナーにも家事・育児を求める。)
- ・就業の必要はないが、他人や社会保障に依存しないで済む経済力があつた方がよい。
- ・本人に働く意欲があれば、職業を持てばよいと思う。
- ・フルタイムは祖父母がいればまだ続けられるが、いない人はパートくらいで良いと思う。
- ・各個人が最適だと思う選択をすべき。(本人の意思を尊重すべき)
- ・ずっと社会にいて仕事に関わっていた方がよいと思うが、子どもに負担がかかるなら、それはどうかと思う。
- ・職業はずっと持ち続けた方がよいが、体調に合わせるべき。
- ・何が何でも仕事優先ということではなく、社会が子を持って働く女性に理解を示して、上手に両立できるようにしてほしい。
- ・もつ方がよい、もたない方がよいではなく、個人がどう考えるかが大切。

## 2 職場での女性に対する仕事の内容や待遇面の差別

◆女性では「昇進、昇給に男女差がある」、「賃金に差がある」が高く、男性では「男性に比べて女性の採用が少ない」、「配置場所が限られている」が高くなっています。



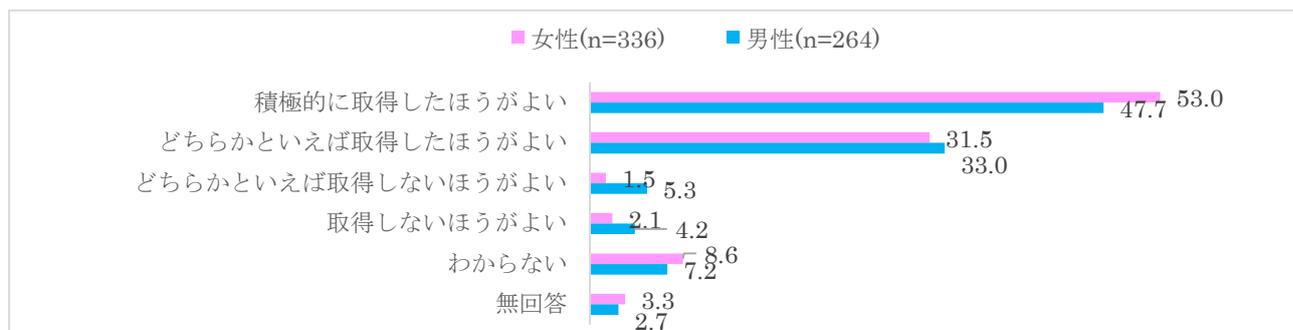
### 【その他】を選択した方の意見

- ・男性に比べて話を聞いてもらえない。接待をさせられる。
- ・むしろ女性が優遇されている面がある。
- ・差別やいじめ。
- ・電話や来客対応もすべて女性の仕事となってしまっている。新人が若手の男性社員でもほとんどやらない。
- ・業種、業界によると思う。
- ・結婚や出産が就職のネックになる。

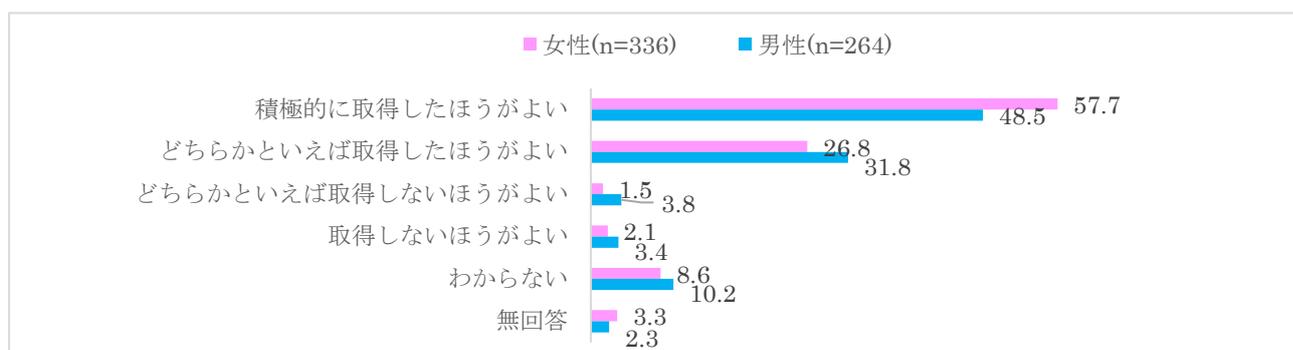
### 3 男性の育児休業や介護休暇の取得

◆男女ともに「取得したほうがよい」が8割を超えています。

#### 【育児休業】



#### 【介護休業】



### 4 男性が育児休業・介護休業を取得しない理由

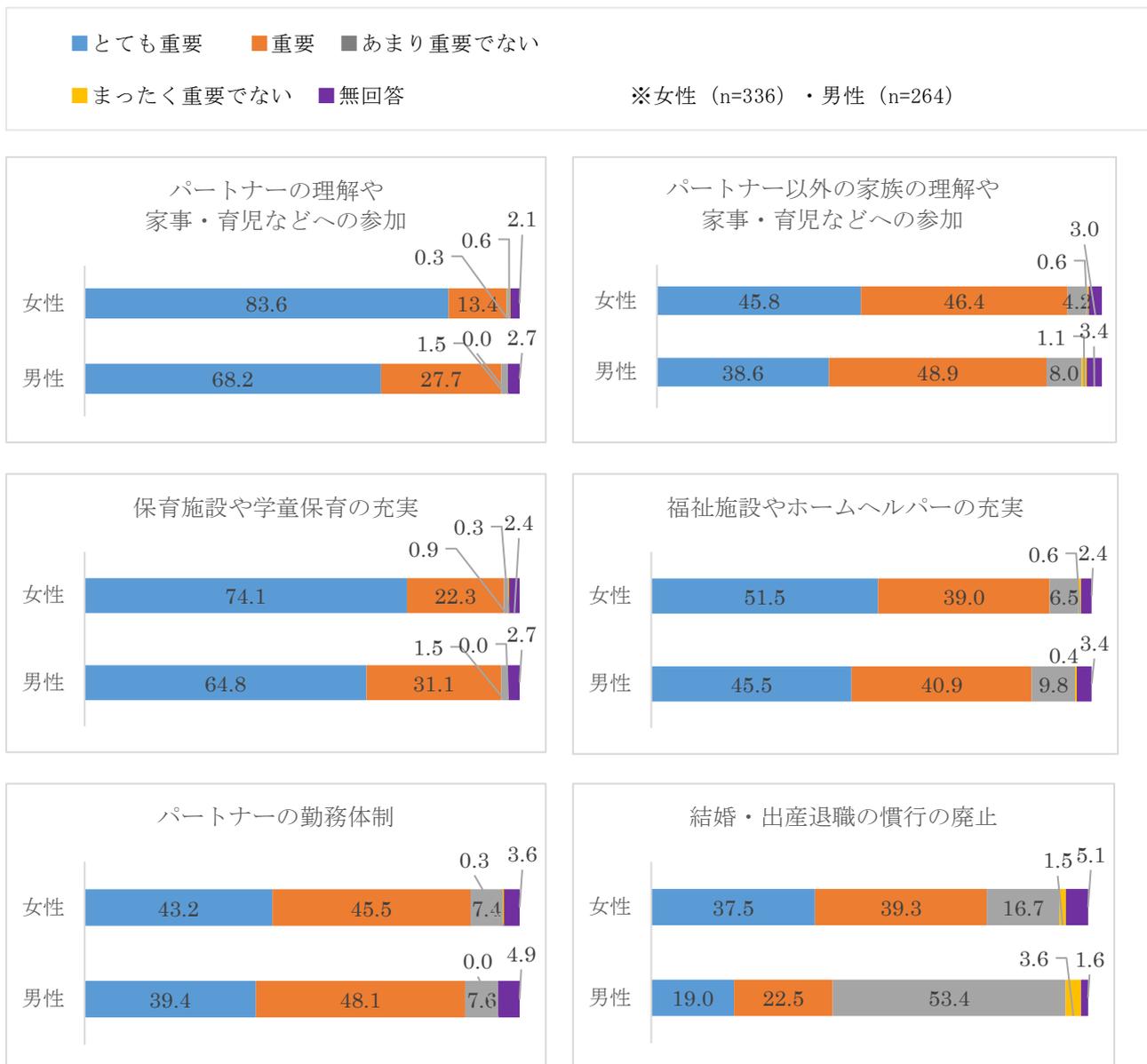
◆【取ると仕事上の周囲の人に迷惑がかかるから】が最も高く、次いで【男性が取ることに  
ついて社会全体の認識が十分でないから】となっています。

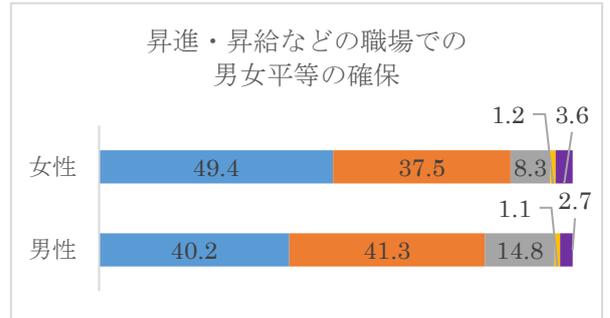
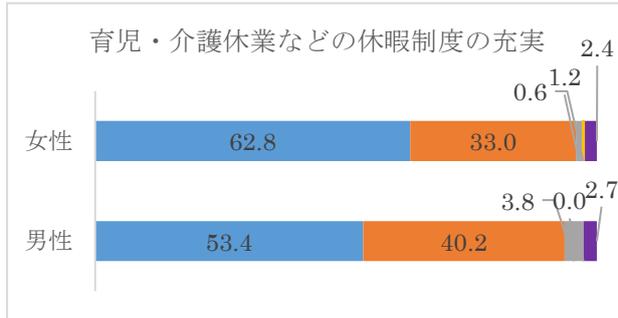
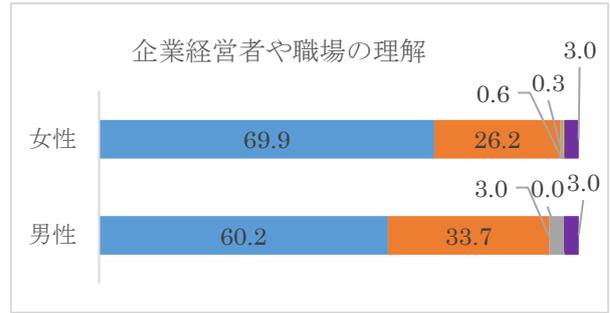
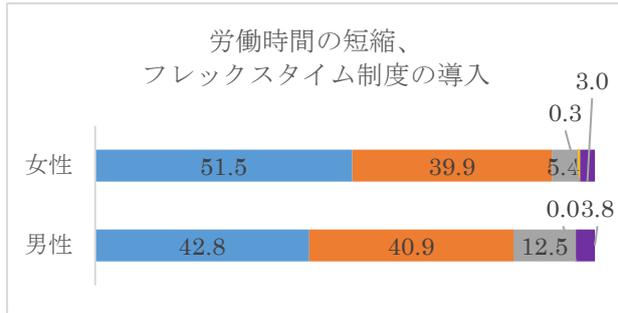


## 5 女性が結婚・出産後も働き続けるためや再就職するために重要なこと

◆退職せずに働き続けるために「とても重要」なことは、女性・男性ともに【パートナーの理解や家事・育児などへの参加】となっています。  
 ◆結婚・出産後に再就職するために「とても重要」なことは、女性・男性ともに【家族の理解や家事・育児などへの参加】、【子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実】となっています。

### (1) 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

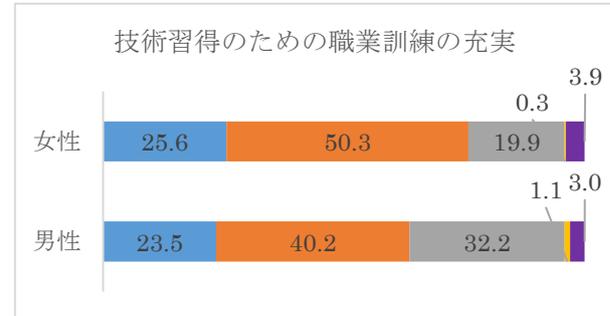
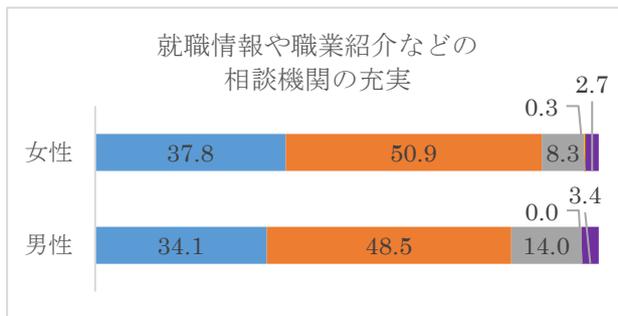
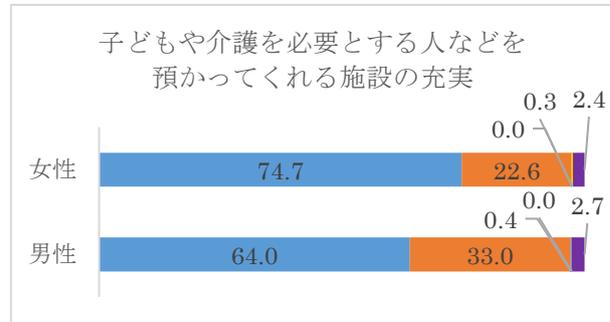
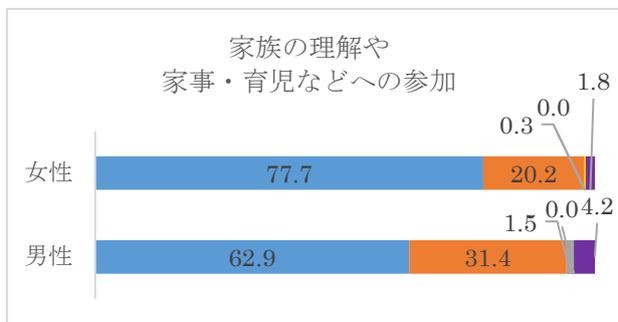


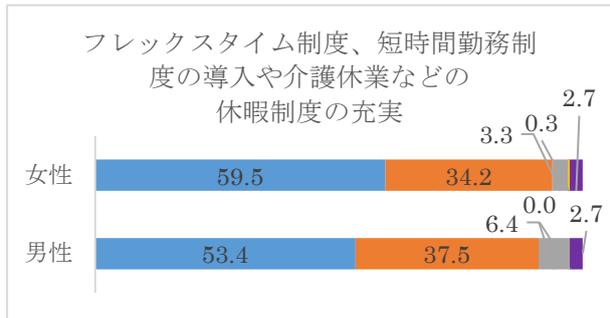
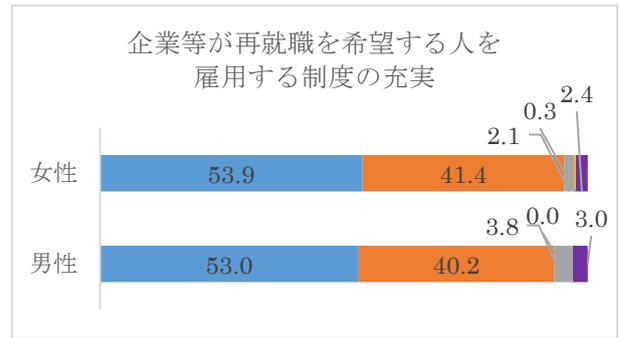
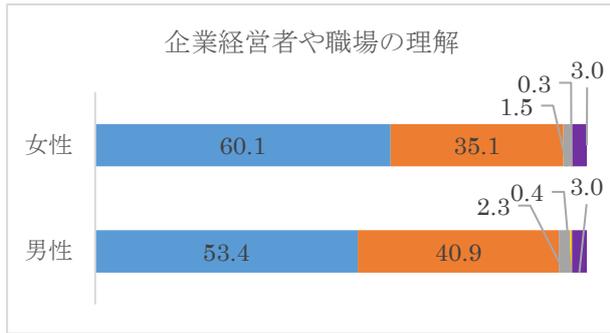


(2) 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するために重要なこと

■ とても重要    ■ 重要    ■ あまり重要でない  
■ まったく重要でない    ■ 無回答

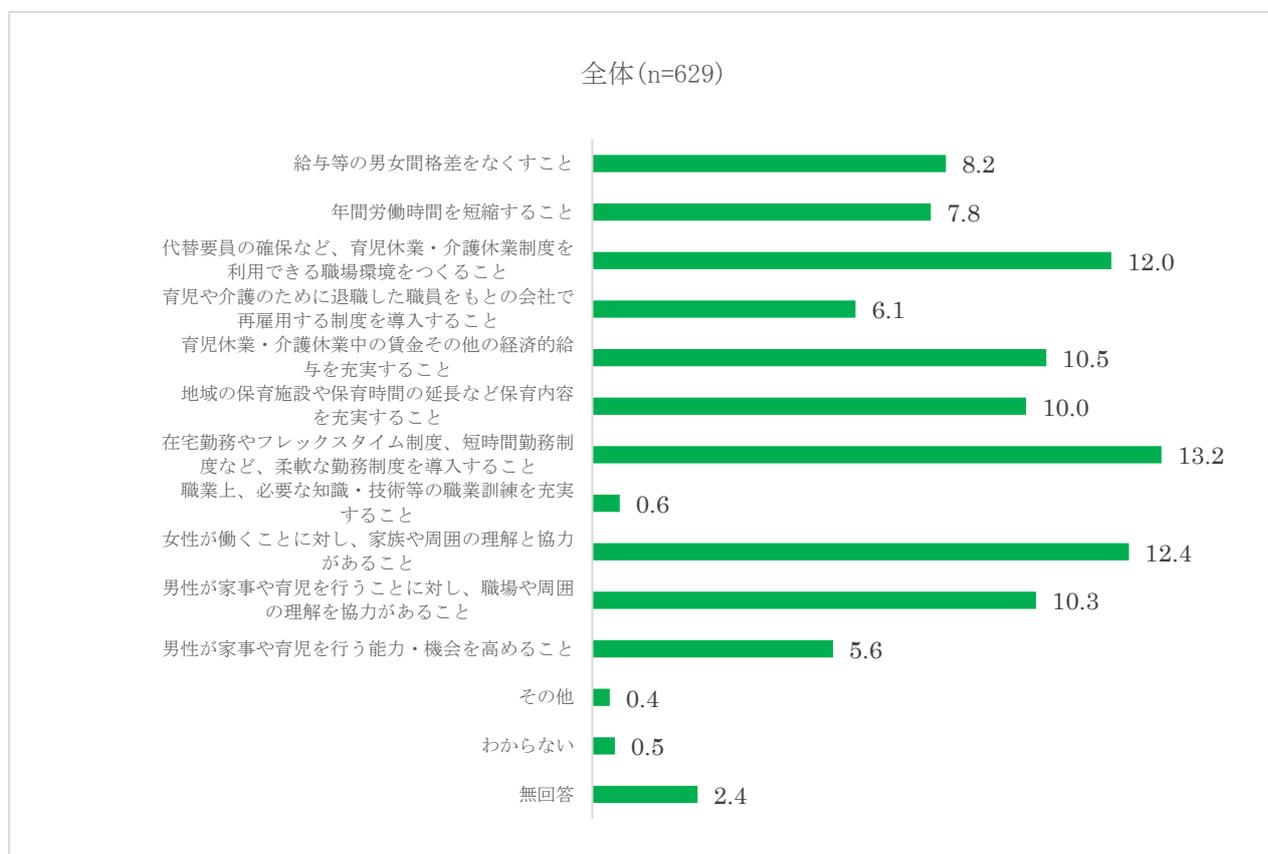
※女性 (n=336) ・男性 (n=264)





## 6 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件

◆【在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること】が最も高くなっています。



### 【その他】を選択した方の意見

- ・ 北欧諸国のような法律、労働への意識改善。
- ・ 本人のやる気の問題。
- ・ 仕事先が十分な人材を確保する。人員の減少は仕事と家庭それぞれの破綻に直結する。
- ・ 男女自体が仕事と家庭の両立を当たり前と思う事が大切。
- ・ 男性が男尊女卑の心念をなくすこと。